

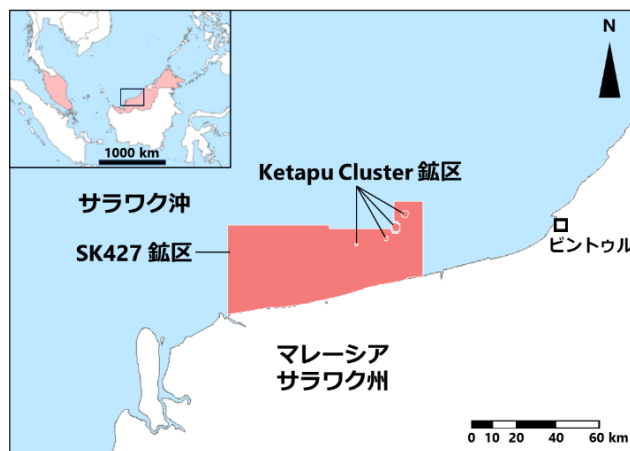
2025 年 6 月 19 日
出光興産株式会社

マレーシアでの油ガス田探鉱開発事業に参入 サラワク州沖 2 鉱区の権益を取得

出光興産株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：酒井則明、以下「当社」）は、マレーシア・サラワク州沖合に位置する 2 鉱区（SK427 および Ketapu Cluster、以下「当該鉱区」）の権益を、韓国の SK earthon Co., Ltd. ※¹（以下「SK earthon」）から取得し、当該鉱区に関する生産物分与契約※²を、マレーシアの国営石油会社である Petroliaam Nasional Berhad（PETRONAS）（以下「PETRONAS」）、サラワク州営石油・ガス会社 Petroleum Sarawak Exploration and Production Sdn. Bhd.（以下「PSEP」）、SK earthon との 4 社間で締結しました。当社が取得した当該鉱区の権益は 40%であり、生産物分与契約の締結により、当該鉱区における 40%分の石油および天然ガスの探鉱・開発・生産権を有することになります。



調印式の様子



権益取得鉱区

当社は現在、ベトナムとノルウェーを主要拠点として油ガス田探鉱開発事業を手掛けています。マレーシア・サラワク州沖合では、過去複数の油ガス田が発見されており、今回の権益取得は新たな拠点構築の足掛かりになると期待しています。当該鉱区では、2023 年の地下探査データにおいて複数の有望構造が抽出されており、試掘井の掘削を通して開発移行に向けた検討を進めていきます。

なお、今回の権益取得は、当社子会社の出光サラワク資源開発株式会社（以下「出光サラワク」）を通じて行いました。当該鉱区については、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から、今後出光サラワクが負担する探鉱事業費の 50%を上限に出資を受ける予定です。

当社は、エネルギーの安定供給の責務を果たしながら 2050 年のカーボンニュートラル社会の実現に貢献することを中期経営計画で掲げています。日本のエネルギー安全保障上重要で、かつ需要の見込める東南アジア周辺での油ガス田開発は、その目標達成のための主要な取り組みと位置付けています。また、マレーシア国営石油会社である PETRONAS が推進している同国での油ガス田開発に参画することで、当該鉱区を足掛かりとした油ガス田開発事業の拡大を視野に入れるとともに、当該地域での CCS^{※3}も含めたカーボンニュートラル事業も積極的に検討し、取り組んでいきます。

<SK427 鉱区の概要>

鉱区名	Block SK427
鉱区面積	約 3,324 km ²
水深	10-50m
パートナーおよび権益比率	SK earthon : 45% (オペレーター) PSEP : 15% 出光サラワク : 40%

<Ketapu Cluster 鉱区の概要>

鉱区名	Ketapu Cluster
鉱区面積	約 27 km ²
水深	10-50m
パートナーおよび権益比率	SK earthon : 45% (オペレーター) PSEP : 15% 出光サラワク : 40%

※1 SK earthon：アジア太平洋地域最大の民間エネルギー企業である SK innovation Co., Ltd.の 100%子会社

※2 生産物分与契約：油ガス田開発にて生産物を産油国と外国石油会社間で分配する契約

※3 Carbon Capture and Storage：発電所などから出る排気ガスに含まれる CO₂を分離・回収し、地中深くに貯留する技術

～ 本件に関するお問い合わせ先 ～

出光興産株式会社 広報部広報課

https://www.idemitsu.com/jp/contact/newsrelease_flow/index.html